グローバル化社会に向けた教養教育の課題

大橋　眞[1)]、モロムジャム・ツエンヘジャルガルガル[2)]、孫 元至[2)]、
ウガンバートル・ガートルガー[3)]、斉藤隆仁[1)]
１）徳島大学大学院ソシオ･アーツ・アンド・サイエンス研究部
２）徳島大学大学院総合科学教育部　３）徳島大学総合科学部

１．はじめに

大学教育改革の中で、グローバル化社会に対応できる人材育成が急務の課題となってきている。これを実現するためには、グローバル化社会をどのように捉えるか、これからの社会の動向をどのように読むのかという問題について、考えることができる人材を目指す必要があろう。これを実現させるために、教養教育の中でグローバル化に関連した授業について、どのような主題を扱った授業を開講する必要があるのかについての議論が必要である。今回の報告では、これまでの取組みを紹介しながら、グローバル化社会に対応できる人材育成に必要な教養教育について考察したい。

２．グローバル戦略とは

日本が世界に対してより開かれた国へと発展する「グローバル戦略」の一環として 2020 年に日本国内の外国人留学生を 30 万人に増やす留学生 30 万人計画が出された。グローバル戦略とは、地球レベルで経済システムを一体として捉える方向性に向かっていくという予測を基にして、このような状況に対応できる人材育成が急務の課題であるという認識に端を発している。グローバル化という概念がきわめて広範囲な内容を含んでいるために、グローバル化社会に対応できる人材像というイメージを描きにくいと思われる。そのために、とりあえずの対策として、国内の大学において海外への留学をサポートする制度を採り入れる動きが目立ってきている。この計画では、その内容にまで言及されていないが、留学を含めた学習プログラムの整備が各大学に求められていると言えよう。しかし、グローバル化社会に関する研究はまだ十分で無く、これに対応した人材という表現にも曖昧な部分が残る。国際競争という言葉もグローバル化時代においては、あまり意味を持たないという見方もあり、とりあえずの目標として、コミュニケーション力の育成や外国語能力の向上などが目標とされている場合も多い。このように、グローバル社会に対応できる人材を育成するという目標達成には、いまだに多くの課題が残されているように思われる。

３．グローバル化という思想から学ぶこと

グローバル化という問題が、将来にわたって社会の形や人々の価値観などに影響を及ぼす問題であるということから、これに対応できる人材という目標を設定して、この目標に沿ったカリキュラムを作成していくということが、これからの高等教育の大きな問題となっていくと思われる。教養教育においては、グローバル化社会の概念を築き上げることが、まず第一の目標になろう。これに関連する教育として、グローバル化に関する歴史的な検証をはじめとして、グローバル化を進めている思想（グローバリズム）に関する理解を深めることが必要である。さらに、グローバリズムという思想が、世界経済の体系をどのように変化させるのか、そのために必要なグローバル化社会に必須である国を超えたガバナンスの仕組みをどのように構築していくのかを考えることも重要な課題であると思われる。現在、議論が進行している Trans-Pacific Partnership (TPP)についても、ガバナンスの仕組みは、不明な点が多い。これは、コントロールの仕組みが不明確なままに、グローバル化という現象だけが進行していくことに繋がり、不安定化を招く可能性がある。さらに、グローバル化する過程で起こりうる競争社会の激化、地域社会の諸問題についての考察を深めていく必要があろう。グローバル化に関するおよその

概念が出来たうえで、改めて近現代史を様々な観点から見直すことにより、グローバル化社会の現実が理解できるという面が多いと思われる。また、歴史や思想などを学ぶことの意義も明確になると考えられる。およその目標が出来ることにより、アクティブラーニングの形式による教育のアイデアが出しやすくなる。また、課外学習や体験を交えた形で教養を学ぶことや、地域社会人と共に学ぶことなどの授業形態の多様化も期待出来る。

４．グローバル化に関する教育の取組み

このように、グローバル化社会に対応するためという目的を設定することにより、教養教育を体系化することも可能になる。しかしながら、これにより一般的な教養という概念から外れていくことも懸念される。そのために、一般の教養科目をグローバル化対応人材育成のための教養科目と分けることも一案であるかもしれない。グローバル社会に生きる人材育成を目指すのであれば、グルーバル化社会やグローバリズムの思想そのものに関しての理解や、その問題点に関する議論を通じて、身につける思考力が欠かせないと思われる（取組み例　図１－３）。その上で、国際社会に生きていくためのコミュニケーション力の育成や、地域文化を守る意義についての理解を深めること、さらに食の安全や健康問題についての考察を深めていくことも必要であろう。

図１. 韓国慶北大学との国際連係授業

５．まとめ

グローバル化社会に対応する人材育成のための教養教育を考えることは、大学教育の体系化の中で教養教育をどのように位置付けるのかという課題の解決策につながる面があり、今後の対応が重要であると思われる。

図２. 徳島大学グローバル化に関する教養科目における地域社会人とのグループディスカッションの風景

図３モンゴル・ビジネス大学における 2014 International Student Conference in MBI

参考文献

１. 大橋 眞，胡 萌萌 ，入口 幸子 ，間賀田 悠吾 ，斉藤 隆仁　グローバル化社会に向けた大学教養教育とは　大学教育研究ジャーナル 11，117-124，2014 年

２. 大橋 眞，斉藤 隆仁　グローバル化社会に向けた生涯教育-大学教育の国際化との連携-日本生涯教育学会論集 34，83-92，2013 年

３. 大橋　眞　生涯学習と大学教育の融合から生まれる知の循環型社会構築―持続可能な社会に向けた地域の大学の課題―日本生涯教育学会年報　32:227-244，2011 年